

サイジヤナル

月刊
28-7・8
第428号

日本サイ科学会 平成 28 年 7 月 1 日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psj.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒466-0051 名古屋市昭和区 御器所3-4-21 眞 野 博 貴 ☎・FAX 052 (871) 9060	北 陸 〒920-0864 金沢市高岡町12-45-1F ホリスティック健康科学研究所内 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 6634	関 西 〒596-0807 大阪府岸和田市 東ヶ丘町808-153 河 野 明 夫 ☎ 072 (445) 7737・FAX 072 (445) 7796	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
--	---	--	--	---

七月本部例会のお知らせ

不思議体験談、写真映像発表・
討論会

皆様がこれまでに体験した不思議な現象や、「サイジヤナル」3・4月号から募集しております「不思議な写真・映像」を参加者の皆様に紹介しながら、参加者全員で解釈や討論をして、共有する会です。

10月の創立40周年記念大会のシンポジウムテーマでもある「UFOと宇宙人」、オーブや心霊写真、地震雲など地震前兆現象、それらに関わる動画等、是非日本サイ科学会事務局に事前に「プリント写真」あるいはUSBメモリーの郵送、あるいはメール添付ファイルで送信いただければ、有り難いです。(送られたものは返却できませんので、コピーをお願い致します。) スプーン曲げ等の念力、透視能力・予知能力などサイ能力に自信のある方、または友人、知人に能力者のいる方は是非お連れしてください。

特別講師はおりませんが、参加

◎事務局からお願い

日本サイ科学会では会員ML(メーリングリスト)・自分の発信したメールが会員に一齐に配信される)を運営しており、事務局や会員同士の情報交換をしております。当方のミスでMLを希望していたのに、未登録のケースやこれからML登録を希望される会員の皆様は office21@psj.mail-box.ne.jp宛に「メーリングリスト希望」というメールを発信願います。

者の皆様の自由な発言でいつも楽しい会になりますし、終了後の懇親会も面白い話題で盛り上がります。

参加費は、会員、一般とも千円です。ので、気楽にご参加願います。

日時 平成28年7月9日(土)

午後1時30分～4時30分

会場 北とびあ7階第1研修室

交通 JR京浜東北線王子駅下車
徒歩2分、ホーム最北端(赤羽寄り)の階段を下り改札口を出て見える高層ビル

会費 一〇〇〇円

今月号の記事

- ◎七月本部例会のお知らせ
- ◎事務局からお願い
- ◎公式サイト移転のお知らせ
- ◎御寄付御礼
- ◎創立40周年記念大会発表者募集
- ◎第28回宇宙生命研究分科会のお知らせ
- ◎関西サイ科学会七月九月研究集会のお知らせ
- ◎中部日本サイ科学会九月研究集会のお知らせ
- ◎九州日本サイ科学会九月研究集会のお知らせ
- ◎平成27年1月本部例会報告
- ◎平成28年5月本部例会報告
- ◎本部例会ビデオ映像の販売
- ◎関英男先生関連書籍の販売
- ◎オーブ(たまゆら)は霊光写真を孕んでいる
- ◎関西日本サイ科学会の発足時とこれまでの講演の一部について

※8月本部例会はお休みとなります。

※9月本部例会の講師は現在交渉中です。

公式サイト移転のお知らせ

日本サイ科学会の公式サイトは、ニフティーのサービス提供終了にともない、7月1日からさくらインターネットのサーバーに移転しました。ブラウザに左記のURLを登録願います。

<http://psi-science.sakura.ne.jp>

「心を科学する博物館」と 一般の御寄付御礼 (6/10受領分まで)

金一千円也 窪田啓次郎 様
金一千円也 飯見 勇 様
金一千円也 赤松 洋一 様
金一千円也 信太 民久 様
金一千円也 齋藤 和良 様

創立40周年記念大会 発表者募集

今年はい976年の日本サイ科学会創立から40周年にあたります

ので、10月16日(日)に北とびあにて、「創立40周年記念大会」が開催されます。

前半は会員の研究発表の時間を設け、後半はシンポジウム(テーマは「地球外知的生命・UFOと宇宙人 ―宇宙人サミット―」)が予定されております。

会員の皆様には積極的な発表ご参加を期待しております。

会員の研究発表では、テーマは「UFOと宇宙人」に関してでも、そうでなくてもOKであり、これまでの研究での新しい発見、現在もしくは近いうちにデータ取りをしてまとめたこと、偶発現象(UFO、オーブ、心霊現象等)の目撃と原因の推測・説明、様々なサイ現象の仮説(理論)など「サイ」に関連することなら何でも結構です。ご自分の考えや研究成果をまとめて、発表して頂きたいと存じます。

7月末までにタイトルと簡単な内容(2000字くらい)をメール、またはFAX、ハガキでお送りいただき、一応審査させていただきます。通りましたら8月31日までに原稿ファイルをメール添付等で戴きたいと思えます。原稿の書式は

後でお知らせ致します。

※創立40周年記念大会での発表はできないが、論文集「サイ科学」の資料として、発表したい原稿も募集致します。

「サイ科学 2015」最終頁の投稿審査規定をよく読んで、応募願います。

第28回宇宙生命研究分科会

第10回UFO・オーブシンポジウム

テーマ「第2コペルニクス革命…宇宙人コンタクト」

天動説から地動説にとってかわられたように、地球人一人ぼっち説から宇宙人てんこ盛り説への第2コペルニクス革命が現在進行中!

ヒラリー・クリントンは、大統領になった暁には、エリア51と宇宙人の謎を情報公開するというのだ。果たしてあなたは宇宙人コン

タクトの準備はできているでしょうか?今回は宇宙船搭乗者や宇宙人遭遇者の生の発言を中心に、一足先にUFO・オーブ最新情報をお届けしよう。

日時 平成28年7月30日(土)

10時~17時30分

会場 品川健康センター3会議室
(品川区北品川3・11・22)

03・5782・8507

交通 京浜急行新馬場駅徒歩2分

JR京浜東北線大井町駅東口から東急バス「渋谷駅」行で「新馬場駅前」下車

会費 会員 一〇〇〇円(日本サイ

科学会・サトルエネルギー学会) 一般 二〇〇〇円

・事前参加申し込みは不要です。
・当日会場にて直接、現金にて参加費をお支払い下さい

シンポジウム後、18:15より懇親会あり!

会費二五〇〇円、無国籍料理店「シマ」にて (世話人 阿久津 淳)

関西日本サイ科学会
七月研究集会のお知らせ

死ぬべき人間から死なない人間へ

講師 梶原 和義氏

日時 平成28年7月16日(土)

午後1時30分～5時

会場 大阪科学技術センター

七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 韋公園内

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

問合せ072・445・7737

関西日本サイ科学会まで

※8月の研究集会はお休みです。

関西日本サイ科学会
九月研究集会のお知らせ

占星術から見た日本と世界の
これからの一年

講師 伊藤 一夫氏

日時 平成28年9月17日(土)

午後1時30分～5時

会場 大阪科学技術センター

七〇一号室

交通 地下鉄四つ橋線本町駅下車

北へ徒歩5分 韋公園内

会費 会員 二〇〇〇円

一般 三〇〇〇円

学生 一〇〇〇円

問合せ072・445・7737

中部日本サイ科学会
九月研究集会のお知らせ

会員数名の研究・体験発表

日時 平成28年9月10日(土)

午後1時30分～5時30分

会場 博愛療院(ゆういん)ホール

名古屋市昭和区御器所3・4・21

交通 地下鉄鶴舞線荒畑駅下車

3番出口から徒歩1分

会費 一〇〇〇円(会員・一般)

※会員以外の方の参加も大歓迎

問合せ052・871・9060

九州日本サイ科学会
九月研究集会のお知らせ

私の世界

講師 藤本 満正氏

日時 平成28年9月11日(日)

午後1時～4時

会場 伊勢宮神社内楠照殿

長崎市伊勢町2・14

(095・823・2665)

交通 諏訪神社前徒歩5分

会費 二〇〇〇円

問合せ095・883・6048

※会員以外の方の参加も大歓迎

平成27年1月本例会報告

THE SOURCE CODES
ソースコードは何ですか？

講師 トレイシー・アッシュ氏

このレクチャーを通じて皆さん
と共に、心の旅に出かけたいと思

っております。こういった講義を通じて、あるテンプレート(雛形)に入って行きたいと思えます。今この瞬間だけの独自の雛形に、皆さんで入って行きましょう。

またこれは、これからの人類と世界のための新たな雛形にもなると思えます。私の研究の多くは、いわゆるソースコード、すなわち本源のコードで、新しい高い波動の雛形に入って行くことと関係しております。

私は20年以上、この研究に邁進してきました。そして判ったのです。献身的に修練をして、また瞑想を使うことで、いわゆる天才のゾーンに入っているということ。本日は科学者や教授の方々、意識の高い方々が集まっていらっしゃるので、この天才というテーマはきっと興味深く思われると思います。

人間の可能性と幸福、健康を高める上で、何度も何度も成功してきたあるテクノロジーを皆さんと分かち合いたいと思えます。またこれを通じて瞑想がもたらす知性について、深く探求して参りました。

人はなぜ瞑想するのでしょう？

そしてどのように瞑想するのでしよう？ また何よりも瞑想しながら、どのように我々の期待値をさらに上げていくか、越えていくか、それが知りたいのです。というのは、最高の瞑想領域に達すること、私達は天才性の中に入っています。そしてまた、どうやって天才の瞬間を何度も何度も達成するか、それについても探求して参りました。これはどんな研究分野でも大事な姿勢だと思います。

例えばもっと柔軟になること、あるいは自分の考えやビジョンをコミュニケーションする際にも大事なことです。積極的に能動的な形で瞑想することで、もともと自分の才能を明らかにするような枠組みに入っていくことができます。

しかしですね、そこで大きなギャップがあることに気付いたので。というのは、私達が瞑想でアクセスできる素晴らしい情報と、それに対して私達の世界にある、いろいろな既存のストーリー、固定観念の間にギャップがあるので。その結果、いわゆる二次的情報を吸収するということになってしまいます。直接の情報ではない

のですね。つまりスピリチュアルな知識も、直接体験ではなく、二次的な他人の得た情報を元に、それを勉強してしまいます。しかし、他人の得た情報では、このような時代に必要な素晴らしい、あるいは輝かしさ、そして最高の状態に達することはできません。

ですから、これからの時代は実際に私達が内面の旅、内面のワークを自らやっていく時代です。そうすれば、本当の意味で自分を解放することが出来るでしょう。自分を解き放つことができれば、よくスピリチュアルな本で読む、実際の素晴らしい体験を自分で体験することが出来ます。

私の仕事は、主に波動をベースにしています。そしてどのようにしてエネルギーワークというものを、最高の可能性まで高めて使っていくか、それに専念しています。例えば、偉大なマスターヨギや霊的な教師がいますが、こういった先生方は大きなアルケミー（錬金術）のプロセスを使っているのですね。錬金術のプロセスを使って、奇跡と魔法を起こし、また自分達のところに来る人々にも、魔法と

奇跡をもたらします。

しかし、私達もそれを求めて、自ら作り出せば、同じような雛形を手に入れることはできます。しかし、どのようにしてそれにアクセスするのか、どのようにして何度も繰り返し同じ結果を得るのか？ 何度も同じようにその状態を作り出してくれるのは、エネルギーであり、波動または周波数であるのです。

そしてそれに繋がるための資質は、皆様の中にもある、新たなリソース、あるいは雛形は、平和のコードです。なので、私の研究は、平和そして変容、そして自分への理解という新たな雛形を作っていくこととなります。それは人間の気付きに、あるいは自覚の状態に確かに影響を与えます。それを通して、その人の波動が変わると、自らが力強くなり、またあなたを制約するようないろいろな既存の枠組み、体制から抜け出すことができます。

例えば、スピリチュアルな人々というのは、今の世界で何が間違っているのか、何がうまくいっていないのか、よく理解しています。例えば世界がエリート構造に支

配され、また枠組みがあり、そして操作されていることも自覚しています。しかし、まだ気付き、あるいは自覚が足りないのです。こうした古いストーリーから抜け出すためには、ご自分のストーリーも変えなければいけないからです。そして、私達が平和の中、平和な状態に入る、つまり心が本当に平和な状態になれば、対立、葛藤の中で生み出された古いストーリーから抜け出すことができます。

しかし、まずは自分の古いストーリーから自由になることが大事です。つまり、今という時代に必要なことは、自分のストーリーを変えていくこと、少しずつ変えることであなただけの世界を変えていくことができます。

私は波動というテーマに非常に魅了されています。例えば、あなたが住む世界は、あなたの波動次第で、大きな世界にもなれば、狭い世界にもなります。これは本当に大事なことです。特に私達は世界を変えたいという夢を持っていますから。そして、もともと世界に貢献し、ほかの人々とも素晴らしい形で協力するためにも、自分のエネルギーを変えたいと思って

います。

では、あなたは自分の中の天才性を発揮するため、火をつけるため、何をしていますか？つまり、自由な雛形に入るために、どのようにして自分の波動を変えていますか？

例えば、今日ここに集まった皆さんを見ていても、皆さんは夢やビジョンをもっていますね。個人として、また集合レベルでどのようにして夢を叶えていくか、それに興味があります。また、自分の人生の目的に気付いている方も、大勢います。より素晴らしい人生、自分とはどんなビジョンなのか、自覚していらっしゃる人も大勢います。そのビジョンに向かっていくスピードを加速させていくことが可能です。

例えば瞑想の中で、クリアなビジョン、曇りのないビジョンを保つことができれば、スピードが加速されるでしょう。しかし、通常瞑想というと、受け身のプロセスを思いがちですね。しかし、自分の中でより目覚めを加速させるためには、受け身だけではなく、能動的な瞑想も必要です。

また私は講師として、常に実際

に役に立つ、効果のあるテクノロジや瞑想法を教えてください。私は人を押し上げる役目がありますので、瞑想を教える際にも、ちゃんと曇りのないビジョンをもって、瞑想することを教えます。また、瞑想する際に、自分の輝かしいビジョン、そしてまた地球の輝かしいビジョンを維持して、瞑想することを教えてください。



今日は、皆さんに内面のワークを体験していただきます。それを通して自分が高い波動、あるいは周波数になれば、——ちなみに波動を高めるときは、ちゃんと体を使っていかなければいけないのですね、各エネルギーシステムを使

っていきます。心と体は繋がっていますから、ちゃんと体のエネルギーシステムとも繋がる必要があります。これが鍵ですね。

というのは、瞑想するとき、頭だけで瞑想される方がいます。しかしそうではなく、瞑想は全身でもってするべき完全な体験です。そうすれば瞑想しながら活き活きと感ずることが出来ます。というのは、私にとってスピリチュアリーティ（霊性）とは、輝かしいばかりに活き活きとすることです。本当に活き活きとしたとき、自分のエネルギーレベルも体も心の状態も変わっていきます。そして感情の幅がずっと広く健全なものになっていきます。そして、自由になつてよりパワフルに、責任をもつた個人になれるのですね。これがスピリチュアルの力を得るといふことです。

まずこういった説明をしておりません。なぜなら、まずはこういった深い内面のワークが必要なのです。深い内面のワークを行わないと、高い波動の雛形に、魔法の中に入っていくけません。ですから私の仕事はすべて、普段本で読んでいるような現実を実際に体験して

いただくことです。それを見て、感じて、知って、体験していただくこと。そうやって魔法、あるいは輝かしい状態、天才性を自分の手元まで持って来ましょう。

これを行えば行うほど、そのたびに健康状態はリセットされていきます。またヒーリングをやっている方にも申し上げますが、こういう方法を行うことで、苦しいばかりのヒーリングというそのサイクルから抜け出せます。例えば、いろいろなセミナー、あるいは先生のところに行つて、何度も繰り返すテーマがありますね。それがなくなりません。

私はいかにスピリチュアルな健康や健全を保つか、そのことに興味をもっています。つまりスピリチュアルな健康というのは、より活き活きとして、気付いて自覚を持つていて、そして責任を持っているという状態です。意識的に日常生活でも使うこと、活かすことです。

というのは、今という時代は、一人一人が目覚めて生きることが本当に大事です。というのは、時間の枠組みがすごく短いのですね。

もちろんこれは魅力的な時代でもありません。二極化が進んでいいますから。なので、二極化が進んでいるため、二つのストーリーが同時に存在している状態です。古い体制もそこにあり、また同じだけ強力な新しい体制も既に出来ています。この二つの両極が存在するというのも、一つの錬金術なのですね。それが今、世界という舞台で起きているということです。

どのように健康な状態に入っていくのか。健全になれば、新しい雛形の中で、より自由に生きて、クリーンにしていくことが出来ます。そのためには、先ほどお話しした、内面のワーク、自己を見つめるということを、献身的にやっているとよくですね。それは一人一人ができる最大の貢献です。

なぜ波動がこれほど大事なんでしょう？というのは、一人一人、人類全体の足を引っ張っている腐敗したストーリーから抜け出すためには、本当に波動を高める必要があるからです。ここで錬金術のプロセスが大事になります。錬金術を通じて、高い波動の雛形に入っていくきましょう。そして、その新しい雛形を肉体レベルで入れて

いくのですね。また、それをこの世界全体にも入れていきます。とても面白い考え方だと思いませんか。賢い人間だったら、敢えてここにある古いものと新しいものを同時に有効利用することが出来るのです。これはとても大事なところですよ。

私達は力とは常に外側の世界にあると教えられてきました。皆さんを見ていても、力とは外側にあるとプログラミングを全員受けております。そうすると自分の責任を取れない、外側のせいにしてしまいう現実を作ってしまうです。しかし、力は内側にあるという考え方に変われば、ちなみに皆さんの心が本当に平和になれば、自然に自分に力が戻ってきます。そうすればもつと宇宙に委ねて、平和になっていくのですね。

平和のコード・ソースコードは私達の宇宙の起源とも関係しています。そしてまた、今ここにある古い体制を乗り越えるための一つの手懸かりがエジプトにあります。というのは、未来の世代のためにもっと生きやすい遺産を残す必要がありまますよね。そのためには、まず私達一人一人が新しいビジョ

ン、そして雛形を作っていく必要があります。そうでないとあなたが今回生まれてきたときの契約を果たすことになりません。私達一人一人が運命と約束しています。人類に希望を与えるために新しい生き方、または雛形を作るためにここに来ています。

まず大事なことは自分を信じていることです。ここが肝腎です。また一人一人が目覚めて気付いて、責任をもって、そしてどんな制約にも気付くことが大事です。波動の変化も重要なテーマです。波動を変えるためにはエネルギーワークをすることです。そうすれば輝かしい自分になって、そして人類のこの大切な分岐点において、貢献することが出来ます。一人一人が自分の世界で成功すること、それが大事です。成功することで新たな雛形の中の一人一人が、マスターキーを作ります。一人一人がマスターキーになることで、また協力者になります。

一人一人が波動を変えて、もつと協力し合えるような人間同士になります。そして協力こそが次の時代です。しかし波動が低いと、あるいは二元的な波動にいと、

なかなか他の人と協力し合えませんが。しかし波動が高ければ、いろいろな神秘的、あるいはエソテリックな資質も手に入れます。

例えば、私とあなたの波動が高ければ、あつという間に意思疎通と互いの理解が起こります。そして新しい形でお互いから学び、互いにいいものを吸収していきます。これは、共鳴とか理解とかテレパシー、シンクロニシティ、魔法、ヒーリングといえます。またこれまでは社会の片鱗にあつたこういう考え方、つまり昔は一部の人が行わなかつたような瞑想が、今は日常的に人々が自らをリセットするために行われています。つまりこうやって、エネルギーや波動がどういう仕組みになっているか、理解し合つてその体験を積み上げていくわけです。

波動が高くなれば、創造的な天才性の中に入っていきます。例えば天才的な閃きがきて、その概念を自分でしっかり理解して、その理解を維持できる。あるいはその天才性のエネルギーを使って、人の前で話す、パフォーマンスする、素晴らしいエネルギーを拡げる。つまり高い波動を理解しマスター

すれば、無限のものが作り出せま
すし、また限界というものの定義
も変わっていきます。

また皆さん科学者の研究分野も
さらに限界値を拡げていきます。
これは大事なことです。なぜなら
さらに最高なものを作っていくと、
この世界を変えていかなければな
らないからです。高い波動はその
ための助けになってくれます。そ
うすれば自由になって、今私達が
いるこの世界を癒すような新しい
アイデアが手に入るでしょう。

これから大きな変化が訪れると
いうことを自覚している人もいる
と思います。しかし、自分の波動
を変えておかないと、その変化が
どんなものになるかは分からない
と思います。波動を変えれば、時
間のマスターになって、タイムト
ラベル・時間旅行が可能になるで
しょう。また未来のテーマにも入
って行って、そして今日やること
が明日にも影響するということが
分かってくるでしょう。そうすれ
ばより厳密な仕事が出来るように
なります。また精密に人生を造っ
ていくことができます。精密な形
で目覚めて、そして自覚し、責任
を取っていきます。すると人類が

生きている世界全体で、意識的に
なっていくでしょう。

今必要なのは、いろいろなテク
ノロジーを試してみること、実験
することです。また、日常生活で
も常に目覚めていること、意識的
であることです。というのは、高
い波動を保つべきは、まさに日常
生活だからです。人類が解決すべ
き問題が存在するのは、日常的生
活においてだからです。ちなみに
私がこういうお話をするときには、
チャネリングをよく取り入れてい
ます。



平成28年5月本部例会報告

意識、無意識、そして潜在
能力を脳の観点からどこま
で解明できるか？

講師 河野 貴美子氏

(国際総合研究機構)

はじめに

私は約20年この方、さまざま
能力者はじめ、気功や武道の鍛錬

者がそれぞれの課題に取り組み際
の意識変化、生理学的身体変化を、
脳波計測を中心に種々状況の下で
行ってきました。

脳からそれぞれの方の状態を見
るといえるのは、とりもなおさず、
意識・無意識の問題、心の問題を
考えることになります。さまざま
な現象と意識との関わり、無意識
の世界と未知現象など、脳を超え
た領域からの理論構築も数多く試
みられてはいますが、生理学的立
場からは、まずは現在わかってい
る脳科学でどこまで説明できるの
か、そしてそこから科学の枠組み
を広げる形で発展させていったら
何が言えるのか考えていきたいと
思っています。

意識とは

意識については昔から、当然の
ことながら数多くの哲学者、科学
者たちの関心どころであり、あれ
これ考えられています。

仏教では、五つの感覚「眼識、
耳識、鼻識、舌識、身識」ととも
にその六つ目として「意」という
感覚、「意識」が並んで入っていま
す。ヒポクラテスは、意識のあり
か、すなわち精神の座は脳にある

といい、アリストテレスは、いや
心臓だ、またガレノスは脳の中の
空間部分、脳室こそブネウマ(気
のようなもの)が宿る場所である
とし、デカルトは松果体こそ脳の
中心にあつて対をなさぬ唯一の
器官だからこれこそ意識を司る座
だ、といいました。しかし、松果
体は発生的には光受容機能を有
する部位で、人間ではメラトニン
を分泌し、サーカディアンリズム
(概日リズム)をつかさどる場
です。スピリチュアル系では宇宙と
つながる特殊な器官のようにわ
れることも多いのですが、解剖学
的、生理学的に特殊なものといえ
るわけではありません。

医学的な定義としての意識は、
意識障害のレベルをその清明度で、
無関心、傾眠、昏迷、昏睡などと
きちんと分けられています。でも
今、障害を問題にしたいわけでは
ありません。

正常意識の中においても睡眠
は、覚醒から睡眠段階Ⅰ～Ⅳに至
るレベル分けを脳波によって明確
に行うことができ、定義できる意
識状態です。さらに、正常意識の
範囲ながら、ちよつと異なる意
識として、心理学などでは変性

意識状態 (ASC : altered state of consciousness) が取り上げられます。気功、瞑想などにおける脳波を計測する際には、このあたりの微妙な意識変化を検討することとなり、実験を繰り返しながら意識とは何かを考えてきました。



脳の科学と意識・無意識

では脳の科学で、一般的に意識は、そして無意識はどう考えられるでしょうか。よく、左脳は意識の脳、右脳は無意識の脳といわれます。人間においてはほとんどの場合、左に言語野があり、言葉に關係する論理処理や分析的なことは左脳の役割、それに対して、イメージ的な処理、芸術的なことや感覚的なことなどは右脳の役割といわれています。日常、意識的な活動というのは言語的に人に説明

できる活動です。自分自身で何か感じて、単に感覚的に捉えただけで言語化されないと明確な意識に上らず、誰にも伝わらないため、左脳を意識脳、右脳を無意識脳という言い方がされてきました。

しかし、右脳も他者への説明ができないだけで、意識活動をしているわけですか。そう考えると、人間において大きく発達した大脳新皮質全体が、右であれ、左であれ意識の脳、内側の旧皮質部分が無意識の脳と考えることもできます。進化の過程で、古い脳をそのまま内側に包み込むように残しているわけですが、内側になるほど無意識ということになります。しかし人間にとつては無意識であつても、古い部分はそれなりに、魚の意識、爬虫類の意識があり、最終的に言語を獲得した人間においては、左脳と右脳のやり取りの中に人間としての意識が生まれたとも考えられます。この脳の階層的構造が意識を生み出す重要なポイントかもしれないとも思っています。ただただ素子(神経細胞)を増やしただけでは複雑な意識構造は出てこないのではないかと。

でもさらに問題があります。大

脳新皮質での信号のやり取りはすべて意識化された情報でしょうか？

脳は外からの入力信号に応じてそれらを処理し、認識する器官ですが、五感からの各入力はそのぞれの別の場所に入り、コンピュータと違って処理は全く並列的、分業作業です。例えば、後頭葉の視覚野に目からの信号が入った途端、私たちは「見えた」と認識できるのででしょうか。網膜で電気信号に変えられて視覚野に入った信号は、まず輪郭などの線分が処理され、面となり、立体になり、色や動きが処理され、と神経細胞を次々乗り継ぎながら処理されていきます。最終的に過去の情報とも合わせて認識するまでには200〜300ミリ秒以上かかります。つまり、信号入力直後から脳はもちろん一生懸命働いています。が、最初のうちはまだ本人は意識できていないことになりました。

さらに、一つの感覚だけではなく、眼、耳、皮膚などから別々に入ってきた情報を統合して初めて一つの事象として認識し、全体的な意識情報となります。視覚野、聴覚野など各領野で、解析のために乗り継ぐ神経細胞の数が違え

ば、それぞれでの分析時間もまちまちでしょう。しかし脳はバラバラの情報を統合して、うまく、言い方を変えれば、適当に、時間的にも整合性をつけてしまっているのです。コンピュータはナノ秒を問題にしますから、わずかなズレも許されませんが、脳は認識するまでにその1億倍近い時間をかけて、うまく処理し、意識に上げている、とも言えるでしょうか。

最初はそのように処理に時間がかかりますが、何度も繰り返される情報は、効率化され、いちいち意識に上げなくても情報処理が行われるようになっていきます。歩く時に、右足、次は左足・・・と意識などしないように。

つまりそう考えていくと、意識とは、その瞬間、瞬間に活動しているごく限られた領域に存在し、その領域は常に変化、そしてそれ以外の場所はほとんど無意識領域だということになります。しかし無意識ながら、意識にのぼっている場所以上にせつせと働いているわけです。

脳の科学のこれから

結局、意識とは何かを研究する

には、脳の仕組みを、コンピュータとは大きく異なるその仕組みを解明することが必要になるのです。

今、世界で脳研究の二大大型プロジェクトが動いています。アメリカでは神経回路をしらみつぶしに全て調べ上げるといふオバマ計画とも言われるプロジェクトが、ヨーロッパではコンピュータシミュレーションを駆使して仕組みを解明するというプロジェクトが動き始めてすでに2、3年経っています。2045年には、コンピュータが人間の知能を上回るといわれ、今年、囲碁もついにコンピュータプログラムがプロを打ち負かしました。

しかし、今のところコンピュータの仕組みと脳の仕組みは全く違います。脳はそのコンピュータによってどこまで解明されるのでしょうか？ 解明されるということはそのようなロボットが作られるということ、その時、意識とは？ 心とは？ さて、どこまでわかるのでしょうか？

本部例会ビデオ映像販売のお知らせ

ハイビジョン映像・音声ファイル(約3時間)を記録したUSBメモリでお送りしますので、ほとんどのデスクトップあるいはノート型のウインドウズ・パソコンで見ることができます。

価格 1本につき 二五〇〇円

(送料含む)

※USBメモリーの価格がかなり下がりましたので、講演録画の価格も下げさせていただきます。

以下のビデオ映像から、御注文願います。

◎2013年7月本部例会

講師 酒向猛氏

「千鳥学説を知るために」

◎2013年9月本部例会

講師 奥野節子氏

「ブラジルの奇跡のヒーロー」

ジョン・オブ・ゴッド」

◎2013年10月第23回全国大会

シンポジウムテーマ

「サイと自然治癒力」

◎2013年11月本部例会

講師 小久保秀之氏

「生体センサによるサイ研究」

―超能力研究の最前線―

◎2014年1月本部例会

講師 小川博章氏

「魂の発見」

◎2014年4月本部例会

講師 西川真知子氏

「生命の智慧 アーユルヴェーダ」

―アーユルヴェーダから見る生命のすばらしさ―

◎2014年5月本部例会

講師 岩根和郎氏

「般若心経とサイ科学」

◎2014年6月本部例会

講師 秦西平氏

「気超科学と宇宙生命哲学」

新病気学」

◎2014年7月本部例会

講師 小林信正氏

「ラップ現象の究明くゝオーブとの関連性について」

◎2014年9月本部例会

講師 石川允朗氏

「死後の世界と輪廻転生について」

の考察」

◎2014年10月第24回全国大会

シンポジウムテーマ

「サイと天変地異」

◎2014年11月本部例会

講師 坂井洋一氏

「日本人は知らない！縄文日本の驚くべき真実」

◎2015年1月本部例会

講師 英国からの特別ゲスト

「THE SOURCE CODES」

ソースコードは何ですか？」

◎2015年4月本部例会

講師 根本泰行氏

「水からの伝言」と「新しい水の科学」

◎2015年5月本部例会

講師 水華氏「君を見放した

りはしないー宇宙神技点描画家ー

水華の世界(ヒカルランド)」

講師 上部一馬氏

「巨大地震を1週間前につかめ」

※続きは11頁下段へ

「アレルギーを治す秘訣」

◎2013年6月本部例会

講師 松原秀樹氏

「イメージによる瞬間教育」

◎2013年5月本部例会

講師 浪平博人氏

故 関英男先生のサイ関係 (+ α) の主要な御著書 (在庫のあるもの)

	定価	送料
加速教育法 (1990: 加速学園出版部)	2,100 円	(300 円)
加速学習法 (1995: 加速学園出版部)	2,550 円	(200 円)
サイ科学の全貌 (1991: 工作舎)	1,995 円	(200 円)
グラビトニックス (2000: 加速学園出版部)	1,000 円	(160 円)
念波 (1990: 加速学園出版部)	800 円	(160 円)
CD: 生命と宇宙 [講演録 72 分] (1998: 船井メディア)	3,000 円	(160 円)
謎のオズマ計画 - UFO との関連 - (1976: USL)	190 円	(80 円)
FIVE DIMENSIONAL WORLD (1974: 英語版)	1,000 円	(160 円)

※「深宇宙探訪記」は大幅に値下げしました。

以下オスカー・マゴッチ著、関英男先生監修

深宇宙探訪記 (上) (1991: 加速学園出版部)	1,000 円	(200 円)
深宇宙探訪記 (中) (1992: 加速学園出版部)	1,000 円	(200 円)
深宇宙探訪記 (下) (1992: 加速学園出版部)	1,000 円	(200 円)
VHS ビデオ: オスカー・マゴッチ氏の講演 (2h40m)	3,000 円	(200 円)
VHS ビデオ: ティモシー・ワイリー氏の講演 (2h45m)	3,000 円	(200 円)

※ビデオは日本語逐次通訳付きです。

お問合せ、御注文は先に下記の E-mail、または FAX 宛にお願い致します。

その際、書籍名と送り先の郵便番号、住所、氏名、電話番号もご記入願います。

ご返事で送料を含めた代金やお振り込み方法等のご連絡を致します。

※正式な御注文から 2 週間以内に発送致します。

※1 種類で沢山の部数を御注文の場合は、事前に在庫を下記の E-mail または FAX、電話で確認して頂いてから、お願い致します。

※以上の書籍は今後増刷がありませんので、在庫が無くなりましたら、ご容赦願います。

< お問い合わせ >

日本サイ科学会事務局 〒 271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町 41-506

TEL 047-347-3546 FAX 047-330-4091

E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

別の実験によると、サイ(気)は既知の物質(例えば光)に加算して、または既知の物質を「呼び水」にして、出現する場合が多い。この性質が本稿の場合にも現れている様子である。写真No.20150306(1)～(3) {伊那市} をみる。上述の実験結果でも述べたが、(1)の満月からの一本の槍状光線とその先のオーブは異常である、写真(2)～(3)はオーブの芽とその成長過程の静止画、つまり図1の(a)、(b)、(c)に示した(類似した)ものが写されたと判断している。特徴的な(No.015306(2)の)、2個に分割された金星の分割の理由として、図1(b)、(c)には陰と陽の2個がある(図1には1個のみが記載してある)、これらの2個(陰、陽)が回転して巴型になり、オーブ写真(2)とオーブ写真(3)になった、と判断している。

上の実験結果でも述べたが、写真No.19940904(1)、(2)は、ほぼ同種の霊光写真と思われるものである。写真No.19940904(富士田貫湖) 写真No.1992010(布田天神)は、より高周波数、より短波長の微細身素粒子(プラナ、気エネルギー)

を持つ図1(b)のイオン・ボール(負の帯電)が、フラッシュ光を受けて、エネルギーと重さを増し、イオン・ボールの一部が破断(発光)し、重力線方向に落下して、地上にある空気層並びに人体が持つ帯電(多分、陽である)と衝突して、落雷通電し、陰陽が合体発光(破裂)したのであろう、と考えている。なお、別の実験によると、上にも述べたが、サイ(気)は既知の物質(例えば光)に加算して、既知の物質を「呼び水」にして、出現する場合が多い、この性質が本稿の場合にも現れていると見るべきだろう。写真No.20152018(タイ)は、図1(b)のイオン・ボールがフラッシュ光を受けて、発光し、破裂したと推定している。つまり数条の光線は、(b)イオン・ボール(親)を形成する要素の単位オーブ(子)を意味しているのであろう。

付録：使用カメラは、市販のカシオEXZR700BK、カシオEXZ330である。

(紙数の関係から、写真は省略させて貰います)

◎2015年6月本部例会

講師 末武信宏氏

「先端アンチエイジング医療&超人を生む自律神経の開発」

◎2015年7月本部例会

講師 飛沢誠一氏

「見えない世界の情報を如何に活用するか?」

◎2015年9月本部例会

講師 山田欽子氏

「あなたの人生が楽しくなるインド占星術」

◎2015年10月第25回全国大会

シンポジウムテーマ

「あの世と多次元世界」

◎2015年11月本部例会

講師 坪井香讓氏

「野性と霊性・ヒトの原点『直立二足歩行』から問う」

◎2016年1月本部例会

講師 佐々木茂美様

講師 佐藤禎花氏

講師 苗鉄軍氏

「オーブ研究の現状報告」

◎2016年2月本部例会

講師 正木晃氏

「靈魂観の現在」

◎2016年4月本部例会

講師 沖田祐美子氏

「神々の謎」

◎2016年5月本部例会

講師 河野貴美子氏

「意識、無意識、そして潜在能力を脳の観点からどこまで解明できるか?」

※御注文はメールまたはFAXで左記に掲載のメールアドレス(またはFAX番号)に、「2010年〇月〇〇〇氏ビデオ購入希望」と記して、郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、御注文願います。2週間以内に発送致します。

E-mail office21@psjmail-box.ne.jp
FAX 047-330-4091

お支払いは、到着後同封の郵便振替用紙で8日以内にお振り込みいただければ、結構です。



れたプラズマの塊 (高エネルギー) を意味している」という。一般に、プラズマ形成には、原子を分離・分解するに必要な高温・高電磁気場の雰囲気が必要であるが、常温空气中に各種の生命が存在する地球表面付近の大気中で、はたしてプラズマ・モイド形成が可能だろうか。またオーブ形成には大気陰、陽イオン・ボール (プラズマ球、陽電子を含む) が必要であるが常温、常圧の空气中で、どのような機構によってこれを得る事が出来るだろうか。量子力学には不確定性原理 (ハイゼンベルグ) とトンネル効果がある。電子は波動と粒子の両方の性質を兼ねそなえている。時間 Δt とエネルギー ΔE は、 h をプランク定数とすると、

$$(\Delta t) \cdot (\Delta E) \geq h \cdots (1)$$

つまり、時間が極短の時はエネルギーが極大になり、エネルギーが極小の時は時間は極大になる。この逆もなりたつ、この応用として、地球表面上のプラズマ・モイド形成が可能であると考える。つまり、時間が極長い時にはエネルギーは極小でも現象が生起することがある。または、式 (1) を基にしたトンネル効果でも説明できる。粒子がのり越えられないような高いエネルギーの山も、波動ならば、回り込んで (滲み出して) 乗り越えることが出来る。つまり量子力学を応用すれば、大気プラズマ・モイドも生起可能である。同様に、陽電子も地表付近にある自然放射線 (γ 線からの対生成) から得る事が出来よう。

オーブ (たまゆら) とプラズマ・モイドと霊光写真を統一的に、都合良く説明出来るモデル (機構、仮定) として図1を提案した (別報、PSIJ、No.421、2015年5・6月号、参照)。実験結果をみると、オーブが示す結果には素粒子類似の性質が現れている。例えば、非局所性、ランダム性など。粒子としての電子はフェルミ粒子で排他原理にしたがうので、同じ運動状態を同時に占める事は出来ない。

これに反し、光子はボース粒子なので多数で、同じ状態を占める事ができる。空気成分の電離 (素粒子形成) と、その後のイオン・ボール形成 (光子群としてのオーブ) には、これらの性質が微妙に関係してくる。そこで、さしあたりの簡略的なものとして、提案したのが図1である。図1 (a) は電子、陽電子 (陰イオン、陽イオンの場合もある)

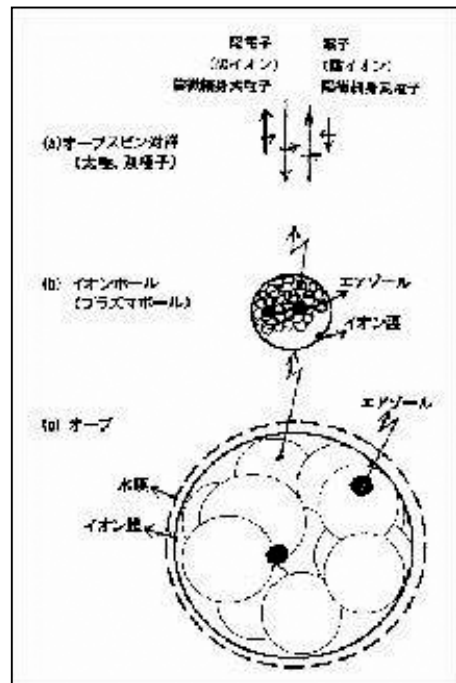


図1 イオン・ボール (仮定)

微細身素粒子 (バイオ・ホトン、プラナ) を基にした巴型の回転体。(b) は (a) を内蔵するイオン・ボール (プラズマ・ボール)。

(c) は (b) 群を内蔵するオーブで、それぞれは、陰陽がほぼ中和していると考えられる。微細身素粒子は、地球外知的生命体、動物、生物、その他あらゆる生命体のエネルギー (例、特徴のあるプラナ、サイ、気) を意味しているまた、撮影時の撮影者から放出されるサイ (気) と体外にある図1 (c) のオーブが同調 (共鳴、共振) して、またはシューマン共振を利用し、マクロPKとして、「たまゆら」(オーブ) になるのであろう (マクロPK) と推定・判断している。

次に、提示した実験結果の考察を行う。写真 No.2535 (福島市) の静止画には、キリ (モヤ) とオーブ (たまゆら) 等が写っている。オーブ (たまゆら) には Halo が有り、輪郭は明瞭、円内には非対称干渉縞模様 (表情) と核がある。写真 No.0623 (福島市) は静止画像、大気プラズマ・モイドと判断される写真である。6秒間隔でフラッシュ撮影した3枚の写真に全く異なる姿形の雲状物質 (大気プラズマ・モイド) が、これらの前と後の2枚の写真の間に、3枚とも、プラズマ・モイドとオーブの写真を伴って、写されている。

右側から中央上部にかけて、さらに、その下側にプラズマ・モイドと思われる雲状物質(煙、キリ、モヤとは考え難い)が写されている(背景の手前)。

写真No.20150306(1)～(4)は長野県伊那市、2015年3月6日(金)、晴れ、夜、満月時、フラッシュ撮影、特異効能保持者のSDK師によって写されたオーブ静止画である。(1)は満月を写したと言われるもの。右側中央に満月(上下方向に引延ばされる、Haloが大きい)、その廻りにかすかな雲状の光(その右横、右斜め上)、月の中心から左方向(横)に光の槍(矢)が放出され、その先端部分にオーブが一個写されている。光は満月の全周から放出されている筈なのに、一方向にのみ写っているのは異常である。さらに上記の雲状光も異常である。写真(2)～(3)は「月を写し、金星を写した」と言うものであるが、2枚ともそれぞれが別であり、また、実在の月や金星とは異なる形姿のオーブが写されている。従って、実在している金星を写したものでは無く、多分、変性意識状態下(ASC)のイメージによる金星、または、オーブの芽が生長する過程(柔らかい状態)が写し出された(オーブ)と考える。

写真(2)は、ほぼ楕円形状の並列2個で、右側はダイダイ色(茶色系)、右側は黄色(乳白系)、右側は黄色(乳白系)のオーブ(中実)の綿状の柔らかい感じの光綿球で、真中に白色発光体を含んでいる。たぶん、1個の大球が分裂して2個の光球となり、それが、僅かに縦方向に引き延ばされた形で、右左に対峙している。写真(3)は、写真(2)のそれらが移動して(または2個の光球が引き延ばされて)「く」の字の形に変移したと思える様な光球で、さらに、色が入れ替わり、紫色が加算されている。別報も含めて、試行錯誤したところ、これらは、上延の「強い小球発光体」が成長した場合に生じるもの、に類似している様に思える。

写真No.19940904(1)(2)は静止画で、富士田貫湖、1994年9月4日、晴れ、夕方、写真(1)は日没時の逆光を受けていたので、フラッシュを用いて「手かざし祈り」のSDKのセラピーの状況を弟子のTMが撮影したもの。写真(2)は、ほぼ同じ場所で、方向を変えて写したもの。夕日の日没近い太陽光の放射下方部分が、ほぼ7色(虹

色)の光放射の首飾り(ネックレス)状(写真1)並びに円状(写真2)または首飾り状(2、3、4重)に写されている。さらに、その下側には、白色半球状(大球)のオーブが写されている。レンズフレヤとは別の特異現象が写された、と判断したい。これも霊光現象の一種と言えよう。

写真No.19920210は静止画。SGMをSDK師が撮影したもの。東京都、調布市布田天神社境内、1992年2月10日、晴れ、夕日の逆光の為にフラッシュ撮影している。太陽光から光柱が降下してきて、SGMの上半分で(頭と胸が隠れる程に)破裂して、ネックレス状の円弧を描いたと思えるもので、霊光写真の一種であり、姿形(内容)からみて、富士田貫湖と同一の機構が推定されている。

写真No.20150201は静止画で、タイ国、チャオプラヤー河の東側岸。晴れ、極早朝(夜明け前)、フラッシュ撮影。親イオンボール(大気プラズマ群、図1参照)が破裂して、構成要素としての小イオン・ボールが四方八方に飛び散った、と感じさせるような映像である。これらも霊光写真の一種と言えよう。

3. 検討ならびに考察

空気中には極僅かながら水分が含まれている、容積比で言うと、0.0～3.0%である。しかし水分が無いと、オーブは極めて出現しにくくなる。つまり、オーブと水は、親和力がきわめて高い。空気中の水は、30万ボルトといわれる大気電界の為に電離している。水を電離させるとH(陽イオン)、OH(陰イオン)、電子(-)になる。いわゆるプラズマであるが、大気電気学では大気陽イオン、大気陰イオン、電子といい、オーブ形成の主役を果たしている。

実験・撮影現場では、写真No.0623に示す様な大気プラズマ・モイドが、オーブ出現の間際に度々出現してくる。多くの場合、気温が低い時(2℃以下)に撮影されているが、その内容は未定であった。しかし撮影の事情(現場)から推定すると、地表付近の大気中で出現したプラズマ・モイド現象であると判断している。なお、本来の、大気(宇宙空間)プラズマ・モイドとは「太陽フレヤなどの衛星観測において、閉じた磁気面で囲ま

目を閉じたまま、感覚的にもものを見る・知るなどの実体験が上記のように行われました。

※現在関西日本サイ科学会の幹事会は会長河野明夫、副会長和田高幸、副会長大西章、副会長

川村隆夫、監事杉立繁、幹事奥村八郎、幹事山田敬子、幹事原田雅子、幹事波多野昭治で構成しており、研究会当日午前中に集まって今後の講師、テーマなどの検討を行っています。志のある方の参加をお待ちしています。

オーブ(たまゆら)は靈光写真を孕んでいる

佐々木 茂美 佐藤 禎花

心霊写真と称するものがある。死人の霊などが写り込んでいると主張する写真のことで、なかには粗雑で疑わしいものもある。オーブもその一種であろうと言う人達がいる。例えば、カメラマン達は、オーブや靈光写真は、レンズフレヤ(ハレーション)や、ガラス、水滴、埃等にフラッシュ光があたった時の反射像が写ったものであろう、と言う。残念ではあるが、一般にはそのように考えられている。しかし実際に撮影して検討してみると、そんなことは無い、オーブや靈光写真は確かに存在している。

1. 何の為に研究するのか

オーブ(たまゆら)は、写されたデジタルカメラ写真の画面の中に、小円形状のノイズとして記録されてくる。水との親和性が高いので、水滴が間違ってもオーブと判断される(偽オーブ)こともある。しかし、真オーブと偽オーブとは区別することが出来、条件さえ選べば誰にでも撮れる、ということで驚くほど多量の撮影画面が残されている。しかし、組織だった研究は行われていない様子である。国の内外における評価・判断をみると、混じりけのない乳白色、または様々な色の発光体で、しかも働きの感じられるものが真のオーブであるという説。これは地球外からの知的生命体や宇宙創造神(高次元エネルギー体)がオーブであると言う意見を持つ人達に多い様子である。他方、これとは対照的に、半透明で輪郭とヘイロー(Halo)があり、円内に非対称の干渉縞模様(表情)のあるものが真のオーブである、と言う主張、これは実験関係者に多い様子である。さらには、それらとは別に、非円形状の柔らかい感じの発光

体等(綿状、または尾を引く綿状)も撮影されている。いわゆる、靈光写真(変形オーブ)である。

本稿では、霊体が写されていると言われる靈光写真と、オーブ(たまゆら)とはどのような関係にあるか、等を検討する為の一里塚を構築したいと考えている。つまり、霊写真について、初歩的な考察を試みる。

2. 撮影結果

使用したカメラや実験条件、撮影者などは付録に纏めて記述してある。ここに提示する写真は総て一例であるが、同種のもの複数以上ある(再現性がある)。多くの実験によると、オーブは降雨前や、晴天下でスプレー噴霧水滴が蒸発した後(5~10秒後)に写り易い。一般には5%程度と云われているが、噴霧水(キリ)の場合には、習熟すると30%以上の確率で出現してくる。

写真No.2539は静止画、福島市飯坂町。2015年1月6日(火曜)、曇り、夕方17:05~17:30に撮影された。スプレー噴射水、フラッシュ撮影である。写真画面の左上方にはキリ(噴霧水)があり、その右側に約5個の中球オーブ、その右に2個の強い乳白色小球の発光体がある。キリの中にも数個の同発光体(単なる反射では無い)がある。またキリの中にも数個の微小球発光体がある。かれらの小球が後述の靈光写真の母胎ならびにオーブの芽であり、これらは次第に成長する可能性が高い、と言える。

写真No.0623は静止画、福島市遠瀬戸の実験室前で撮影。2014年3月20日(木)、ちらちらと僅かに小雪が舞い始めた、と感じられる天候模様(-1℃)、19:06分頃。フラッシュ撮影。画面の

ようです。つまり心理的ストレスよりむしろ肉体的ストレスが多かったとのことで、ストレスの種類によりガンの出現場所が変わること、また病を作る心を変えればガンは治るともいいます。

2016年(平成28年)1/16(第404回)森川薫氏

地震は地層のずれで発生します。その際地層の間に力が加わり物理量に変化が起きます。これまでの地震(予知)研究ではGPS利用、電磁気学的方法などがとられてきました。森川薫氏は阪神淡路大地震以前から20数年に亘り深井戸の静水面のレベル変動の観察を続け、それにより地震の前には一定の変動が見られることを見出しました。これを地震予知に利用しようというもので、この原理は地層のずれが発生しようとする圧縮応力が加わることで地層中の水分が押し出され、その水分が近辺のみならず遠方の井戸の静水面のレベル変動までももたらすからと思われまます。これは他の物理量による予知に比してより本質的で確実なセンシング方法であろうと思います。他の手法との共同研究などを行って今後のレベルアップを期待しています。

2015年(平成27年)11/21(第403回)中野瑞樹氏

中野瑞樹氏は2000日近く、フルーツを中心に果実だけの食生活実験を続けています。この間、ご飯、パン肉も魚も、水、お茶、お酒も一滴も飲んでいない。食しているのは、フルーツだけです。これで骨密度その他の検査では全く異常は見られないと云います。つまり「毎日果実を食べる」ことで健康増進が図れるということです。

素晴らしい研究であり提言だと思えます。果物により肉類を摂取せずに済めば、病気も少なくなり食料費も医療費も減らせるでしょう。

2015年(平成27年)1/17(第389回)高峯秀樹氏

右脳はイメージ、左脳は理屈を司ると云われます。イメージは脳に絵を描くこと。油絵、書、俳句等を始めると手相、特に左掌の手相に顕著に変化が現れるとのことです。高峯氏によると「掌は脳の外部表現」で、手相は脳を写しているようで、その脳は自分の未来を反映しています。脳が変化すれば手相も変わるらしい。つまり脳

を鍛えることで自分の未来が変わるようです。

2014年(平成26年)6/21(389回)平岡憲人氏

一般に我が国に伝えられているカタカナや阿比留文字など様々な神代文字(古代文字)は後世の偽書とされていますが、平岡氏はこれら「ヲシテ文献」の読解と分析を重ねた結果、ヲシテ文字の真実性は否定出来ないという結論に至りました。

ヲシテ文字がなぜ真実であるといえるのかは非常に簡単で、ヲシテ文字によって従来解けなかった日本語の謎が解けてしまうからです。その例として、単語の意味をヲシテ文字の字形から説明できる、つまり、ヲシテによって語源がわかるということ、文法をヲシテ文字の字形から説明できる、つまり、ヲシテによって助詞や活用の意味がわかるということです。

2005年(平成17年)9/17(第301回)和田高幸氏

ダウジングは、昔は柳の枝を両手で持ち、その開閉などから水や鉱脈を探す技術で地中や遠隔地から未知の情報を得るものです。

情報をもたらすのは右脳(無意識)で、これを解釈するのが左脳(意識)。前頭葉は、直観の場所ともいえます。それが筋肉に伝わり、動きをもたらすと考えられます。

右脳による「カン」のはたらきは日常的に経験しますが、通常は右脳が知っていても意識しないことが多いのですが、和田氏はこれを引き出す一つの方法がダウジングだといえます。ダウジングはまた、予測・判断力を磨くのにも有用といえます。

2011年(平成23年)1/15(第354回)

赤松瞳氏は数年の訓練で透視能力を身につけ、当日参加者から提供された物品16点を透視実験し、ほぼ完全に透視できました。

ロシアやウクライナの脳科学研究では、生まれながらにして目の見えない子供たちに、脳の視覚視野や中脳の能力開発トレーニングにより、目以外の感覚を使用して読み書きができるようになったということです。このように超感覚的な能力を身につけるビデオ紹介や、実際に



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行

電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

公式サイト <http://psi-science.sakura.ne.jp> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

関西日本サイ科学会の発足時とこれまでの講演の一部について

関西日本サイ科学会会長 河野 明夫

私は会社在职時にコンピューターメーカーの方と打ち合わせの雑談中にサイ的な研究会があるということを知り、その会の創始者が岩波全書「情報理論」の著者で尊敬する関英男博士と聞いて参加しました。

関西日本サイ科学会は本部に1年遅れて、関博士の友人で当時読売テレビ常務取締役であった木村六郎氏を初代会長として1977年(昭和52年)に発足しました。1992年(平成4年)に木村会長の逝去により、私河野が二代目会長に就任しました。

木村会長の長女のり子さんは会創始時から受付を勤めていただき、会のシンボルでもありましたが、残念にも昨平成27年12月に逝去されました。ご冥福を祈ります。

関西日本サイ科学会は昨年7月に400回目を迎えました。この間初代木村会長や幹事の皆様のご努力によりほぼ毎月研究会を開催することが出来ました、厚く御礼を申し上げます。

研究会のテーマは当初はスプーン曲げなどの超常的なものとかもいろいろありましたが次第に人間の生き方などが増えました。それらの講演の中で印象に残っているものを述べてみます。

関先生は『洗心』と『ご法度の心』をくりかえし述べられました。

『洗心』とは「強く正しく明るく、我を折り、宜しからぬ欲を捨て、皆仲良く相和して、感謝の生活をなせ」ということで、『ご法度の心』とは「憎しみ、嫉み、猜み、羨み、呪い、怒り、不平、

不満、疑い、迷い、心配ごころ、咎めの心、いらいらする心、せかせかする心を起こしてはならぬ」ということです。

関先生にはある時期から年に一度関西での講演をお願いしました。大阪に来られる度にオリンピックの年には世界的に交通事故が増加するとくり返し言われたのを思い出します。

2008年(平成20年)1/19(第324回)

名古屋の鶴田光敏医師はヒーラーの能力もあつた大阪の会社社長、中川昌蔵氏の言葉を紹介されました。「今日1日親切にしようと思う」、「今日1日、明るく朗らかにしようと思う」、「今日1日謙虚にしようと思う」、「今日1日素直にしようと思う」、「今日1日感謝しようと思う」。この言葉のポイントは「親切にする」ではなくて「親切にしようと思う」と思い続けることが大事だということでした。

数十年前、世田谷の関先生宅に伺った時、私は言葉足らずでしたが「病気になる人は超能力がある」と申しあげて先生はびっくりされました。最近では、研究会の講師の医師の方々も、自分の心の癖が病をもたらすとの例も紹介されています。

2007年(平成19年)11/17(第323回)

土橋重隆医師によれば右乳ガンの人は家庭内の問題で強いストレスを感じながら生活していたことが多いといいます。一方左乳ガンの人は肉体に過度の負担がかかっていることが多い